

2020. 8 北海道地学巡検

加藤幸男

1 昭和新山 (洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク)

有珠山麓の噴火活動で**麦畑が隆起**してできた昭和新山。

昭和 18 年(1943 年) 火山性地震が起こり始める。

昭和 19 年(1944 年)

4 月 柳原地区もとの地面より 16m 隆起。

5 月 隆起の中心がフカバ集落に、最大 50m 隆起。

7 月 爆発が激しくなる。火砕サージ発生。防風林、家屋焼失。7 つの火口ができる。

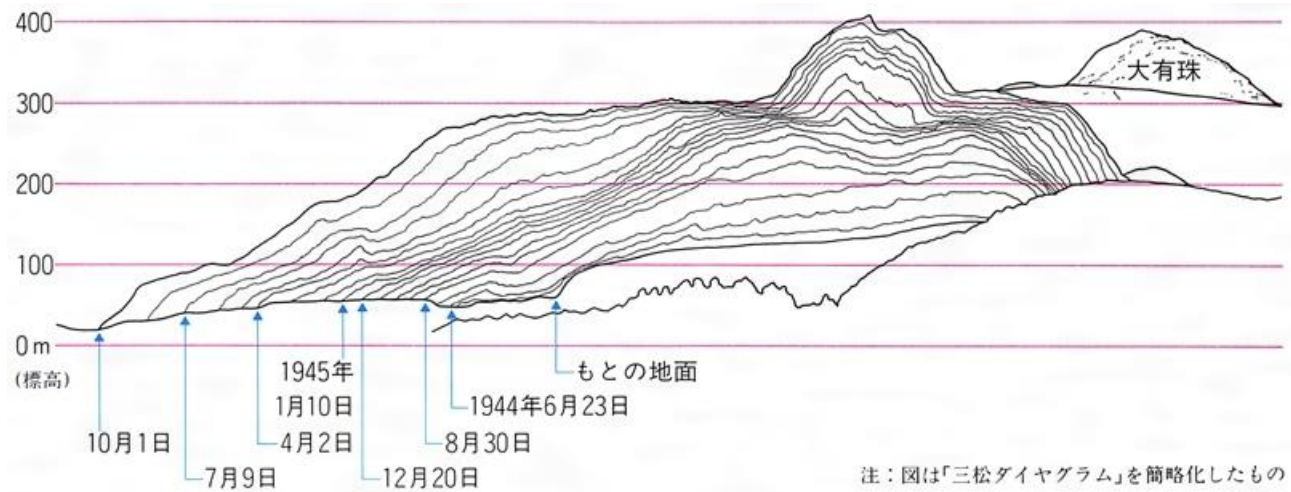
10 月 海拔 250m 潜在ドームとなる。

12 月 潜在ドームの中央に並んだ火口群の中心から、三角形の溶岩ドームが現れる。

昭和 20 年(1945 年)

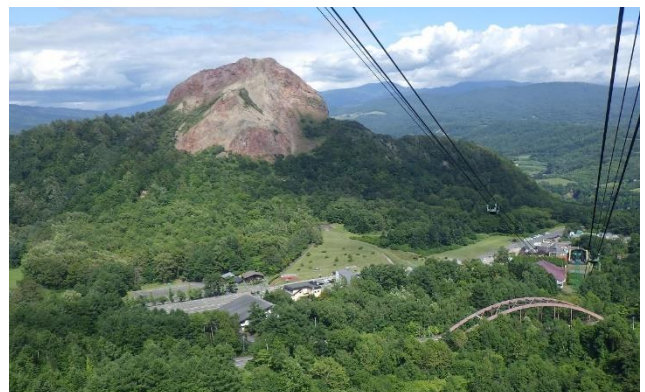
春から 潜在ドームの東側が急に盛り上がり始める。

9 月 ようやく地震が少なくなり、溶岩ドームの成長も止まる。海拔 407m の昭和新山が生まれる。



近くにある有珠山ロープウェイに乗ると、昭和新山の全体の様子がつかめる。中腹から白い噴煙が上がっているのが分かる。

昭和新山のふもとは、火山と共に生きた三松正夫氏の銅像がある。台座には「麥圃生山」(麦畑山ヲ生ズ)の文字が彫られている。

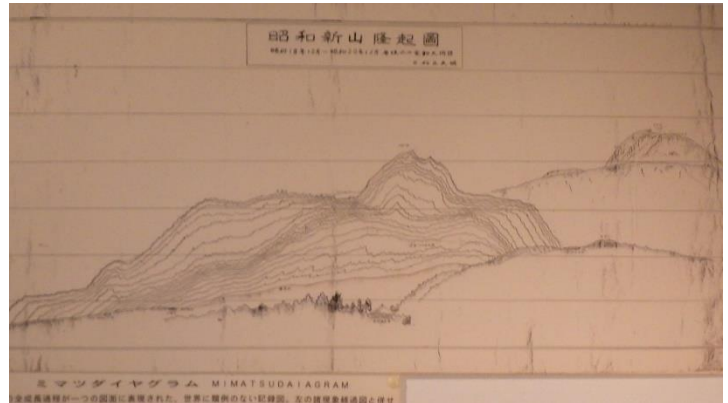
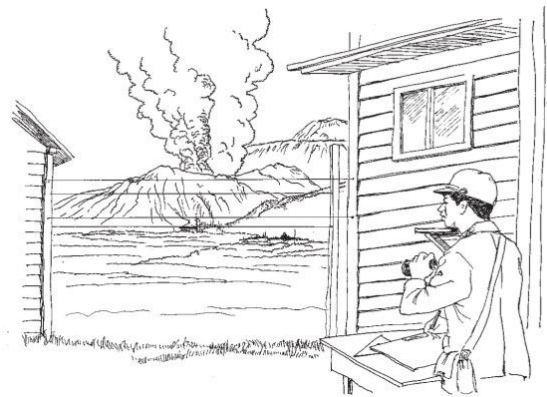


◆三松正夫記念館

昭和新山の生成記録で世界的にも名を残した三松正夫氏の観察記録を展示している。自然公園入口付近にあるが道路からちょっと入った所で目立たない。三松正夫氏の孫(養子)の方が細々と経営している。入館料 300 円。



三松正夫氏は、第 2 次世界大戦の困難な時期に、有珠山の噴火を見守った地元の郵便局長である。三松氏は明治の噴火を体験した後、有珠山に関心を持ち、自分で火山について調べ勉強をした。そして 1943 年～45 年噴火の時に、その活動をつぶさに観察し、多くのすぐれた記録を残した。火山成長の経過をスケッチし続け、1 つの表にまとめた観察記録は「ミマツダイヤグラム」と呼ばれている。昭和新山の高さを毎日同じ位置から測った。このミマツダイヤグラムは 1948 年にノルウェーのオスロで開かれた国際火山学会で発表され、世界の火山学者の賞賛を受けた。



昭和新山の溶岩も展示されている。

表示には「紫蘇輝石石英安山岩」と書かれていた。

→デイサイト(流紋岩質マグマ)

その隣には溶岩ドーム表面の赤茶けた岩石があり、溶岩が上昇の途中で地中の粘土が焼き付き、天然のレンガになったとのこと。



三松正夫氏の昭和新山のスケッチもたくさん展示されていた。

2 有珠山 733m (洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク)

有珠山にはロープウェイに乗って、洞爺湖展望台と有珠山火山口原展望台に登った。

ロープウェイから洞爺湖、中島、遠くに後方羊蹄山(しりべしやま)が望める。洞爺湖は、約11万年前の火山活動によって誕生した巨大なカルデラ湖。

有珠山は約2万年前に誕生。当時は富士山のような山であったが、7~8千年前に山頂部が大きく崩れ、その後の噴火で大有珠、小有珠、有珠新山ができ現在のよう形になった。右の写真は大有珠山頂の溶岩ドーム。

2000年には、洞爺湖温泉街に近い「西山山麓火口」や「金比羅火口」で噴火が起き、大きな被害が出た。現在は噴火遺構公園や火口群を巡る散策路が整備されている。



3 登山編

◆後方羊蹄山 1893m (日本百名山)

洞爺湖の北に立つ山で「蝦夷富士」の通称の通り、富士山によく似ている火山。約6万年前ごろから火山活動を開始し、約4万年前頃に成層火山を形成した。山頂には直径700m、深さ200mの火口(父釜)がある。主な岩石は安山岩・デイサイトとなっている。



◆十勝岳 2077m (日本百名山)

北海道の真ん中に位置する十勝岳連峰は、主峰の十勝岳を中心に、美瑛富士、美瑛岳などの2000m級の山々が北東から南西へほぼ一列に並ぶ火山群。

約100万年前から噴火活動があった。繰り返される噴火のたびに、発生した火砕流が麓に流れ込み、美瑛や富良野、上川盆地のうねるような丘陵地を作った。主な岩石は玄武岩~玄武岩質安山岩とのこと。



◆おまけ「青い池」(美瑛町白金)

「青い池」は1989年に十勝岳火山泥流対策として行われた砂防工事の過程で偶然生まれた人口池。その美しさが評判を呼んで観光名所になっている。水中のアルミニウム粒子が太陽光を散乱させて青く見えるとのこと。水面に枯れたカラマツが立ち並び、神秘的な景色が広がっている。

